



## 日本カトリック海外宣教者を支援する会

## 巻頭言

## 「一つの世界」に住んでいる

メディカル・ミッション・シスターズ 延江 由美子

2020年は地球に住む私たちにとって極めて稀な年でした。知人のジャーナリストは、「私たちは今まさに“世界史の現場”にいる」と表現しましたが、その状況は2021年5月を終ろうとしている今も続いています。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。お一人お一人、きっと様々なことを経験され、また思いを巡らせていらっしゃることでしょう。コロナ禍ゆえの数少ないプラス面は、私たちは「一つの世界」に住んでいるという現実を経験していることではないでしょうか。

ここ数年私はミSSIONナリーとして、インドとアメリカと日本を定期的に行き来していました。昨年3月にはインド北東部に戻る予定でしたが、インドは他の国に先駆けて早々に渡航制限を敷いたので延期を余儀なくされました。まあ5月頃には出発できるだろう、と呑気に構えているうちに世の中はあっという間に一変し、事態は、インドに行けなくてガッカリ、などという個人的感傷のレベルでは済まされない、もっともっと甚大なスケールの世界的危機に発展していきました。気象変動や自然災害、大規模森林火災、テロや内戦などなど、地球共同体を脅かす出来事があちこちで頻発する昨今、世界が一年先どうなっているかなんてわからないと常々思っていたものの、まさか突然、このような形でこれほどの長期間、母国日本に留まることになるうとは全

## ♥♥もくじ♥♥

巻頭言	1
第80回運営委員会議事録	3
宣教者からのお便り	4
こんにちは！お久しぶりです	13
ザ・メッセージ	13
ECHO	14
連載「海外宣教」	15
新入会員・事務局より	16



くの予想外でした。

いつだったかインド人のイエズス会士が、「僕にとってミッションとは、今、目の前にある、僕の助けを必要としていることに応えることだよ」と話してくれたことがあります。メディカル・ミッション・シスターズ (MMS)、また看護師の端くれとして、逼迫している日本の医療現場で戦力として働けないのを嘆かわしく思いつつも腹をくくって、自分ができることに日々専念しています。その一つが、MMSとインド北東部についていろいろな形でシェアすることです。お声をかけていただければ躊躇することなく二つ返事でお答えしていますが、毎回準備する過程でこれまで気がつかなかったことがわかったり、新しい事実を知るきっかけになっています。今でも「知られざる」という形容詞がぴったりなインド北東部でMMSが活動を始めてから、去年で50年になりました。多様性が特徴的なインドでも北東部はとりわけユニークな地域です。そこには言語も生活習慣も歴史背景も異なる、実にバラエティーに富んだ130ほどの民族が住んでいて、人々の顔立ちはいわゆる「インド」というイメージからはかけ離れていると言えるでしょう。北東部での奉仕に関わり始めたのが2007年。10年以上経った今も、日々出会う人々の逞しい生きる力や命溢れる子供達の姿に感動し、どこか懐かしい田園風景にほっと気持ちが和らぎます。しかし、そのような豊かさに恵まれる一方で非常に複雑でセンシティブな現実があり、私が見聞きし経験してきたことを日本の方々にお伝えすることの難しさをひしひしと痛感しています。アッサム州とナガランド州にいるシスターたちとはSNSで時々話す機会があります。年の始めに「どんな感じ？」と尋ねると、「もうだいぶ普通になってきてるわ。市場だってフルスイングだし、マスクしている人はほどんどいない」という返事。確かにクリスマスに送られてきた動画では、修道院に村の人たちが集まって（確かに誰もマスクをしていません）大いに踊って歌っていました。

そして2月のはじめのニュースでインドでの感染者が劇的に減少し始めていると伝えられました。一体何がそうさせたのか？ほんとうにインドって不思議ですごい国だなあ、インドに戻る日も近いかも知れないと思いながら、繰り広げられる議論を興味津々読んだのでした。ところがその後4月になって、インド各地で驚愕する感染爆発が始まりました。感染者も亡くなった人も発表される数字よりはるかに多いことは想像にかたくありません。状況は日を追う毎に酷くなる一方です。「人々の苦しみは想像できる域を超えている」と国連も支援に乗り出しました。2週間ほど前にきた西部マハラシュトラ州・プネに住んでいるシスターからの連絡には「虫のようにどんどん人が亡くなっています。祈ってください。」という一文が。どうぞ皆さまお祈りの輪に加わっていただけますと大変心強く存じます。今後どんな展開になるのかは相変わらず全く予測できませんし、ましてや世界の有り様がどうなるか誰もわからないでしょう。そんな中だからこそ、神様への信頼のうちにいつもポジティブでいられるようお願い祈っています。

皆様の上に神様の確かなご加護がありますように。

## 第 80 回運営委員会議事録

日 時：2021年3月13日（土） 15:00~17:00 中止

場 所：フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 2階会議室 中止

12月運営委員会同様、緊急事態宣言が延長されたため事前メール委員会となり議案書を送付してそれについて全員からメールを受け取り集約。

### 議 事

#### I. 「きずな」154号について

巻頭言の浦神父様が Dengue 熱にかかり、入院静養を余儀なくされたため原稿が危ぶまれたが、大変な中書いて下さったことに感謝したい。くれぐれも宣教師の方々には気をつけていただきたい。

その他意見

- ・やはり今回カラーで読みやすかった。これからも続けたい。
- ・チャド、シスター平からのマットレスの報告も了承。

#### II. 「きずな」155号について

巻頭言：シスター延江由美子（メディカル・ミッション・シスターズ）にお願いした。

#### III. 援助申請審議について

- ① ベリスメルセス宣教修道女会 シスター弘田しづえよりエクアドル・ロハにある学校 Liceo de Loja はコロナ禍で親から学費が集まらず光熱・水道代などにも事欠き閉校に迫られたため。電気代・水道代8か月分 \$1,360 の援助申請。（委員会では困っているところへ援助することに問題はないが、現在現地に宣教師がおられない援助申請に対して活発な意見が交わされ、基準を設けるなどの準備が必要、基本的には援助の報告と金銭的なことの責任が取れるなら援助して良い等々。しかし宣教師が戻るか、現地を見に行くなどの要件は必要）今回は全員が援助して良いと回答。

シスターは来年度同国を視察予定。コロナで保護者からの徴収が期待できない学校の電気代・水道代8か月分 \$1,360 援助決定

#### IV. その他

- 海外雑誌発送は業者側から荷物量がそろったところで発送するためいつになるかは不明。第一回目2月19日49件発送済。
- 3月きずな154号は封入も発送もすべて業者をお願いした。6月もボランティアか、業者発送するかこれから検討。
- 3月5日きずな事務所発送は少ない人数、短い時間で実行。海外便119通、国内大口など76通発送。

- 宣教者へのカトリック雑誌を寄付してくださるドンボスコ社からコロナ禍での依頼があり会報 155 号に初めてチラシを封入させていただくことになった。長いお付き合いであり協力することに。
- NPION 会員情報個人 842 件入金者など 2 月末現在までのすべてを打ち込み終了
- 以前当会運営委員であった原のり子様が 92 歳で 2 月に帰天。
  - ・次回運営委員会 6 月 1 2 日（土）15 時～ 聖ヨゼフ修道院 2 階会議室予定



## 宣教者からのお便り



シエラレオネ ◆ルンサ◆

### やっと手に入りました

ご聖体の宣教クララ修道会 白 幡 和 子

ウォータータンクがやっと手に入りました。



店の人がもう 2 か月以上前に配達すると言っていたのですが、それが実現せず、先週シスターがフリータウンに行ったときに小さな車の後ろに 6 つのタンクを山積みにしてルンサにもってきました。

O.L.G. の小学校に二つ（低学年と高学年）、中高に一つ、マリアイネス中学と職業センターの一つずつ、それにマンガにある私たちの小さな小学校に一つの合計 6 個です。園長のシスターが生徒たちが使っている写真を送ってくれました。手を洗った汚い水はホースでどぶに流れるようになっているので足が汚れませんし、タンクは大きいので何度も井戸に水を汲みに行かなくてもすみます。こちらのコロナはほとんどありませんが、いつも手はよく洗うように、これを機会にもっと手洗いを徹底させることができます。今までのように一つのバケツに手を突っ込んで全員が洗うのではちっとも衛生的ではありませんから、このタンクのおかげで本当に助かっています。あまり長いこと掛かったので本当にどうになってしまうのかと皆さまも気苦労なさったにちがいません。本当にありがとうございました。

そちらのコロナはその後いかがでしょうか。心配しています。お隣のギニアで数日前にエボラが発生し、4人亡くなり3人の感染者が出ています。国境は閉められています、シエラレオネからは簡単に行かれますので心配です。お祈りください。私達がただ一つの大きな家族に属していることをもっと確信できますように。そして兄弟愛と連帯の精神を持って多くの貧困と悲惨な状況を助ける事ができますように。皆様の上に神様のお恵みが豊かにありますようにお祈りもうしあげます。



ハイチ

◆カパイシャン◆

## 貧困ゆえの普通の暮らし

レズンブトリスチン修道会 飯村 美紀子

昨年の3月頃より蔓延し始め、世界を震撼とさせたコロナウイルスは、既に一年半以上もこの地球上に留まっておりま。国によっては、対応も異なり、人々も夫々異なる反応を示しています。また、各自でマスクも購入出来ないような土地の人々は、殆ど以前と変わらない生活状況であり、パンデミックという言葉も知りません。昨年、パンデミックの始まりました頃、ある程度の知識を得た婦人は、いつも市場で売っている野菜に加えてニンニク、キュキュマ、アロエ、生姜等を並べて、リズムカルに歌いながらお客さんをお呼びしていました。「コロナはネ～～、ニンニク、アロエ、生姜とキュキュマ、そしてレモンを合わせて食べればネ～～、怖くない～～。怖くない～～。」と言った具合です。病院や薬局も殆どなく、またあったとしても遠方であり、更に、医師不在という所では、コロナ患者が亡くなっても、コロナとは分からずに、「風邪をひどく拗らせたから、息が苦しくなって亡くなった」と言う訳でコロナウイルスによって死亡したとは思ってもいないようです。故に、コロナウイルスにより死亡した方の数については不明であり、更にコロナ患者の正確な数については分からないのが現状なのです。初期の頃は、患者数、死者、そして予備軍等について発表しておりましたが、医師、医療機関等からの届け出のみでは正確に分らないのが実情です。

ところで、御復活祭後、こちらの教会では小

学生、主に低学年の子供達が初聖体を受け、家族にとっての喜びの時を迎えます。女兒は純白のドレスに真っ白なヴェールそして初めての白いレースの手袋をはめて、可愛らしい天使のよう！御ミサの後は、知人を招き、盛大な！お祝いのパーティーを開き、歌やダンスなども披露されます。私の知人から送られてまいりましたビデオでは、人々は喜び歌い、食し、全くもってパンデミック下にあるという雰囲気は、皆目感じられませんでした。このような事は現在の日本では有り得ないことでしょうかと深く感じ入った次第です。

町の中でも、人々は身を寄せ合ってタプタブ（小型トラックを改造したバス？）に乗り、市場では他の人に触れずに歩くことが困難な程の多くの人々で賑わっており、パンデミック下にあるということを感じられません。私の住んでおりますこの小さな町も以前と同様に、人々は普通に暮らしております。このような現状を見て、私は思いました。貧しいこの国の人々に対する主のお優しいご加護なのではないかと。そして、数年前の四旬節の折り、大司教様が御ミサのお説教の中で、皆さんは、普段から断食しています。故に、これ以上の断食は免除しましょう。と言われたことを毎年の四旬節が参りますと思い出すことのひとつになっております。（この国は、世界の最貧国の五指に入ると言われている）パンデミックの一日も早い収束を願って、修道院では、特に亡くなられた方、患者方、医療に携わっておられる方達、家族や職業を失った方達、悲しみと痛み、苦しみの中におられる方達と深い連帯の心で主への信頼をこめて出来る限りの犠牲と共に修道女一同で祈っております。

チャド

◆ライ◆

## マンゴーの樹の下教室

ショファイユの幼きイエズス修道会 泉 淑 美

2019年9月に日本からチャドに戻り10月半ばから子どもたちのためのマンゴーの樹の下教室を再開しました。子どもたちは、5歳から10歳、約70名。いろいろなことを試みながら続けていました。しかし2020年3月19日に、チャドでもコロナウイルスの感染者が確認され、全国一斉に学校閉鎖になり、そのまま年度末の6月まで授業は再開されませんでした。結局、5ヶ月余りの期間、勉強しただけでこの年度は終わってしまいました。

2020年度になり、公立小学校が授業再開するのを待って2020年11月から私たちもマンゴーの樹の下教室を再開しました。初めは「大勢が集まると危険だ」と言われましたので、子どもの数を制限しようとしたのですが、とても無理でした。

またコロナウイルスはライの町では全く感染者を出すことなく、マラリヤや、腸チフス、その他原因不明の死者はありますが、コロナウイルスのような風邪の症状や、家族間の感染や、死亡というのは見られません。そこで集まった子ども全員を対象に、感染症に対抗する免疫を高めるため、子どもたちに栄養補給を目的におやつを始めることにしました。（昨年半分の期間しか実施できなかったために援助金も残っていませんので……）

10月、11月は収穫期で、他の時期に比べると食べるものはあるはずですが、子どもたちは

いつもお腹を空かせています。サツマイモの時期でしたので、ふかし芋を週に2回配りました。お芋に加えて、こちらの特産物、炒った落花生や、落花生油のおからで作った揚げ物もおやつメニューに加えました。このおやつのせいでマンゴの樹の下に集う子どもたちはまた増え、100人を超えることになりました。今まで2つのグループだったのを3つのグループに増やし、更にどこのグループにも入らない（入れない？）子どもたちや、定期的に来られないこの為に一つグループが出来ました。

12月18日からのクリスマス休暇を挟んで1月4日から2学期が始まりましたが、今度は1週間で続けられなくなりました。公立の小学校で2学期（1月から3月が2学期です。）を再開しないクラスが半分くらいだったのですが、とうとう全校で教員ストライキに入ったのです。マンゴの樹の下教室は壁が無く誰でも参加できるようにしているので、公立小学校がお休みになると、そちらの小学生が遊びに来て加わり、普段来ている未就学児の場を奪ってしまうのです。

識字教室は思考錯誤しながらまだ続けていきたいと思っています。公立学校のストライキに振り回されないようにできないかなと考えますが、いいえ、それよりも全部の学校があるべき姿になることを願いたいと思います。

2年分としていただいた援助金でしたが、結局8か月くらいしか実施することができず、1100ユーロ余りを残すことになってしまいました。残念です。でも今後も子どもたちの為のプログラムを続けてまいりますので、そちらに使わせていただきたいと思っています。残金の

分のご報告はまたその時にさせていただきたいと思います。

モンゴル ◆ウランバートル◆

## 集会や宗教活動の禁止

サレジアンシスターズ 小島華子

皆様のお祈りと思いをもって私の宣教活動を支えてくださりありがとうございます。パンデミックの為に愛する人をなくし、貧しい生活を余儀なくされていらっしゃる方が沢山いらっしゃいます。

モンゴルではウイルスが国内に入る前から沢山の規制が敷かれ、各家庭への支援金はあるものの、仕事を失くした方、出勤できない方があふれ家庭内暴力が多発し、何度もアルコール18度以上の飲み物の販売禁止令も出されました。規制された内容の中に「集会や宗教活動の禁止」という条項があり、1年以上も教会でのミサがない為、信者が教会離れをするのではないかと懸念し教会活動再開の際には0からのスタートになるのではと覚悟をしています。もちろん、SNSなどでメッセージを発信したり毎日オンラインミサをしたり、ZoomやGoogle meetingを使って黙想会や会議をしたりと信者、あるいは教会に来ていた人々との関わりを断ち切らないようにしていますがインターネットの料金を払えない貧しい人たちはどうなるのでしょうか？国内にウイルスが入ったのは今年の11月ですので他国と比べると感染者も死者も少ないのですが、確実に感染者が増えていっています。経済の建て直しのために今のところ今

年の7月から外国からの観光客の受け入れ開始を予定していますが、今後の感染状況によってどうなるか分かりません。私自身も Stay home で修道院だけでの生活が1年以上も続き、今まで自分がどのような生活をしてきたかという感覚を忘れてしまいそうです。モンゴル人の宗教者、外国人を見る目はまだとても厳しいので、もし何か起きたら、私たちだけではなく「カトリック教会」の責任ということになりますので、賢明さに賢明さを重ねて生活しています。

ところで、2021年度版のモンゴル宣教師の統計が出ましたので、この場を借り紹介させていただきます。教区司祭(フランス、韓国、モンゴル)4人、助祭1人(モンゴル)、修道会10、信徒宣教師1人、新共同体3人で合計24国籍、67人です。24カ国からきた67人がこれからも司教様の下で1つになって神様のみ旨に沿ってモンゴルの人々に神の国の良い便りをつげ知らせ続けていくことができるように、どうぞ皆様これからもお祈りと応援をよろしくお願いいたします。感謝をこめて。

メキシコ ◆チアパス◆

## アメリカを目指す難民

ベリス・メルセス宣教師修道女会 眞 神 シ ゲ

メキシコのチアパスとは南米からアメリカを目指す移動難民たちの通り道、グアテマラからの国境を超えて多くの人が着のみ着のままアメリカを目指して集まる。

グアテマラには72種類もの原住民が居て非常に貧しい。多くはマヤ系原住民であり、政府

から阻害され疎まれ食物も不足している。多くの言語があり、スペイン語は話せず。政府は彼らの土地を奪いたいと考えている。

グアテマラからチアパスへは河を渡りバスでだいたい7時間くらいの近さ。人々は食べ物が貧しいため、基本的栄養素が不足している。農地改革も行われずたくさんの農奴がいる。現在のゴミ捨て場はゴキブリの巣窟で虫なども沢山発生、そのような所に住んでいる原住民の為に何かできないかと思っている。修道院はその近くにあります。



メキシコのチアパス



アメリカへ向かう列車を待つ難民たち

フィリピン ◆マニラ◆

## コロナ禍での現状

慰めの聖母の聖アウグスチノ修道女会 奥田久子

昨年11月にマニラで終生請願を立て、その後ビザの関係で日本に戻り、現在は東京都江戸川区にあるカトリック葛西教会近くのウルスラ会修道院に滞在しております。

昨年まで所持していたフィリピンでの宣教師ビザは有効期限をむかえ、更新するにはフィリピンから一時出国し、新たに申請しなければならないと入国管理局から言われているのですが、このコロナ下で、現在東京にあるフィリピン大使館は新たなビザの発給を厳しく制限しており、フィリピンにはしばらく戻れない日々が続いております。

マニラにある本部修道院のシスター達とは最初に連絡を取っておりますが、こうした中途半端な状況なので、フィリピンの現状を踏まえた記事を書くのが少し難しいのです。

フィリピンに戻りましたら、原稿を送ります。しばらくお待ちいただければ幸いです。

東ティモール ◆ディリ◆

## 幼稚園建設実現に向けて

聖心侍女修道会 中村葉子

マナルーは東ティモールの社会、教会の中で、良く知られたシスターです。初めは既存の某カトリック修道会に入会しましたが、より徹底的に貧しいキリストに従いたい、と独自の在俗会

を創立した方で、その精神は創立後35年を経た今も生き生きと彼女自身とその会員の中に脈打っています。私は毎回、彼女を訪問する毎に、自分の修道者としての、キリスト者としての生き方を根底から見直さなければならない、と感じます。彼女はダレというディリ市郊外の山間部に拠点をもち、常に会のメンバーや新たな志願者たちと共同で生活しています。生活のための収入源は、栽培している苗木や伝統薬品から得ているという、極めてエコロジカルなライフスタイルを通しています。私たちは時折、それらを購入して彼女たちの会をサポートしています。活動のための収入源をどのように賄っているのかについては何うのも失礼かと思って、聞いたことがありません。パイロピテ・クリニックという東ティモールの貧しい人々の“救い”のようなクリニックがあるのですが、これもマナルーが共同創立者ですが、完全無料！です。ティバルにある結核療養所も同様です。あるとき「これら二つの施設については政府からの支援がある」とおっしゃっていましたが、「それも途絶えがち」とのことでした。

東ティモールが独立を勝ち取った1999年、インドネシア軍は腹いせに全土で焦土作戦を展開。東ティモールのインフラの7割が破壊されました。これは世界のNGOの注目の的となり、Care International, Oxfam, World Vision その他の無数の団体が救援活動に押し寄せました。それらの団体が「最も大きな困難に陥っている人々はどこにいるのか、どこから活動し始めたらいいいのか」との問いを持ってコンタクトした人がこのマナルーだったのです。また、同時期、ディリ市民の多くが焦土作戦を怖れて逃

げていった先の一つがダレのマナルーたちの拠点で、彼女たちは何百人、もしかすると何千人という規模の国内避難民をケアしました。

マナルーが、これまで着手したことのない幼稚園教育に従事すべき、との結論に達し、私に支援団体を紹介してほしい、と頼んできました。これまでは青年女子、貧者、病者などを対象に活動してこられました。健全な国造りのため、教会造りのためには幼児教育こそが必須と感じられたようです。

幸い私たち、聖心侍女修道会は当国で幼稚園教育に長年従事してまいりましたので、教員の養成、教材開発その他に経験があります。マナルーは幼稚園運営のための精神的バックボーンは豊かに持っておられますが、具体的なノー・ハウはまだ十分持っておられません。当修道会が其の面で、特に教員養成で彼女たちに協力していければ嬉しいと思っています。

## グアテマラ

### 難民避難所の5人組

ベリス・メルセス宣教師女会 眞 神 シ ゲ

メキシコ国に数ある難民避難所のひとつ：ウィチャパンへの支援をお願いしたい。10万円（主に交通費他）ここに何人かのメルセス会員が働いています。

5人組と言って5人一組のチームを組んでいます（医師、イエズス会員、メルセス会員、とボランティア2人）昼夜を分かたず24時間の奉仕を続けています。オンドウラ、エルサルバドル、ニカラグア、グアテマラからの難民はメ

キシコを通り、アメリカ入国を目指して歩み続けています。彼らに衣、食、住、と医療支援のためと思ってお願いします。詳しいことは7月中旬にグアテマラに戻りますので、その後報告させていただきます。



難民避難所の5人一組のチーム



難民たちとシスターロサ

ドイツ ◆デュッセルドルフ◆

### 苔むした大木からの芽

聖パウロ女子修道会 比 護 キクエ

14、5年前、ドイツをいつになく大きな台風が襲い、その大嵐によって南ドイツの多くの山々の大小の木々が全滅といってよいほどになぎ倒されました。当時ドイツの全国民は、自然の恐ろしさと同時に大切な自然があつという間に丸坊主になったことで悲嘆にくれたものでした。

何か月前、その当時と現在の山々の状況を比べ

て、自然の驚異を伝えるドキュメンタリーがテレビで放送され、偶然にそれを見た私は、自然の底知れない力に感嘆しました。

私がなぜそれを書くかといいますと、現在の教会と世界の状況があつた台風といくつか類似点があり、そこから学ぶことがあるように思えるからです。まず現在の教会や世界を大嵐が襲っていると思えます。雨、風、雹の大暴風雨です。それによって樹齢何百年もの木々が見事にバッタ、バッタと倒れるのです。私には日本も含め、欧州の教会・修道会がこの木々に見えます。精神面より物質面が尊重され、家庭崩壊・教会離脱・モラルの低下・召命の減少・それに拍車をかけるように、教会内の腐敗がこれでもか、これでもかと横殴りの大嵐のように押し寄せてきます。ドイツの教会は、数十年前から聖職者による青少年への性暴力が明るみに出され、今も大きく問題提起されています。ケルン教区も例外ではなく、隠蔽問題でポエキ枢機卿様が窮地に立たされています。世界を見ると、戦争・独裁政治・飢餓・自然破壊・そしてヒチコックの「黒い絨毯」の映画を思い出させるようなコロナという病魔が私たちの生活を脅かし、毎日何万人もの生命を奪っています。これらの現象を自然になぞらえ、私たち人類と地球・宇宙の未来への警鐘と恵みととらえるか、絶望と破壊ととらえるかは私たちにかかっています。「あなたの考えは？」と問われれば、私は前者を選びます。それは私が再び若返り、20代、30代の時のように元気にますます活躍できるようになると思えるからではありません。むしろ逆です。私の体は、一日一日と弱り、最後は主のお迎えを待つのみという状態になるでしょう。それでも私

はそれを恵みと見ます。あの暴風になぎ倒された木々のように、次世代と未来のために堆肥になると考えるからです。ドキュメンタリーでは、森が生きていることを伝えていました。倒れた木は朽ちて苔が生えます。するとそれを待っていたかのように昆虫が繁殖し始め、次に野鳥が来、しばらくすると動物たちが闊歩しはじめ、最後に野鳥や動物たちが運んできた種々の種が朽ちた木々を堆肥にして芽を出し成長していくという仕組みです。樹齢何百年もの大木は、元に戻りません。でも朽ちることによって次世代の堆肥となり、その成長を助けるわけです。稲作農家に生まれ育った私は、稲の一生からもそれがよくわかります。春になると、田打ちという秋刈り取った切り株を打ち起こす仕事をよく手伝いました。切り株によっては、青々と葉を出しているのもありました。そういう切り株こそ特に深く鋤を入れて掘り起こし、再び芽が出ないように地中深く埋めなければなりません。つまり新しい苗のために堆肥になってもらうわけです。

現在私達のドイツの修道院では、イエズス会の神父様の助けを借りて、私たちの4～5年後の将来を検討中です。なぜ4～5年後かという、4～5年後に9人の姉妹のうち、4人が80代と90代に突入するからです。一時4つの修道院があつたのが今は二つに、16人いた姉妹は現在9人。若い姉妹は、「何々司牧を」とか「何々宣教を」と、現実離れた計画を夢見ています。高齢の姉妹は、「私はまだこれができるから幸せ」と言います。この言葉を聞くと、私の心は痛みます。このような言葉を言わざるを得ない環境を作っている私たちの責任を感じ

るからです。「あなたの行動より、あなたの存在そのものに価値がある」ということを理解してもらえぬのを願っています。オンライン会議で何回も話し合う中で私が感じているのは、今がとても恵みの時だということです。「私の使命とは?」「修道会の使命とは?」そして究極的に「教会の使命とは?」と考えざるを得ません。私は修道会の使命に参加し、修道会は教会の使命に、そして教会は「天には神に栄光、地には人々に平和」とイエズスの誕生のさいに天使たちが羊飼いに告げたその使命を世の終わりまで実行することです。

冒頭のイエズス会の神父様はドイツ語圏の修練長様でおられ、昨年始めたときは4人の修練者がおられたそうです。それが11月に一人退会し、今年2月に二人が退会。ある日がつかりして近くの教会で祈っていてふと目を上げると、遠くの隅のほうでアフリカ出身とみられる若い青年が一心に祈っているのが目に入りました。そのときふっと光が差したように感じ、「自分は何を祈っているのか?修練者が増え、イエズス会が再び以前のように世界のあちこちで活躍することか?神様は、自分が考えたり望んでおられることと全然違う計画をしておられるのではないか?あのような次世代の教会と世界を担う青年を通して……」この神父様の体験談に私はとても心を打たれました。なぜなら私にはこの青年が、苔むした大木から芽を出した若木のように見えたからです。「新しい世代のための堆肥になる」ということを考えると、私が短い一生を終えるにしても、修道会が教会から授かった役目を終えて長い歴史に幕を閉じるにしても、あの森に横たわった大木のように、朽

ちても無駄ではないのです。私は、「主は必要な時、必要な場所に、必要な人を送られる」と信じています。森へ行き、横たわっている苔むした大木を見るとなぜか嬉しくなります。その苔に小さな木が芽を出していると、なお心が喜び踊ります。

ドミニカ ◆サンティアゴ◆

## 雑誌を久しぶりに手にして

シヨファイユの幼きイエズス修道会 小 森 雅 子

いかがお過ごしでしょうか?

近況を書きましたのでお送りします。

いつも援助をお願いする時にしか連絡をせず御無沙汰ばかりして申し訳ありません。

郵便事情が悪かったので“きずな”が届かないこともありましたが、今回、雑誌やカトリック新聞が届いたことに驚きました。日本からはまだ海外の郵便物は取り扱っていないと聞いていましたので郵便ではない違う方法が有ることも分かりました。

雑誌は久しぶりに手にして嬉しかったです有難うございました。

こちらに居る移民者の方にも読んでいただこうと思っています。

コロナ禍で経済的にも厳しい時ですが 皆が持ち前の明るさと適応力を生かし進んでいます。

では、良い聖霊降臨の祭日をお迎え下さい。

聖霊のお恵みが、会の役員の皆様方の上の沢山降りますようにお祈りしています。



バコロド市唯一の郵便局が1年以上ストップとなり、ようやく最近再オープン致しました。お便りも入手でき遅ればせながら心よりお礼申し上げます。日本のコロナ終息は遅々としているようで心配しております。そのような中でも異国の私共のため、常にご尽力いただき深く感謝いたしております。どうぞくれぐれもご自愛なさいますように。お祈りと御礼をこめて

\*イタリア ローマ

イエスのカリタス修道女会 松山恵美子

昨日、きずな No.154 を受け取りました。  
いつもお世話になります。

私の共同体のシスター平峰子はこの3月に日本に帰国しました。入れ替わりにシスター向井由美子が共同体に加わりましたのでお知らせします。



△世界の小さな子どもが幸せでありますように祈ります。(沖縄県伊江村 立石広海)

△関係者の方々のお働きを陰ながらお祈り致しております。少額ですが、何かのお役立てに寸志を送ります。

(宮城県仙台市 仙台白百合幼稚園)

△お元気ですか？わずかですが送らせていただきました。(福岡県福岡市 長谷川千恵)

△コロナ禍の中尊いご奉仕をありがとうございます。皆様のお働きを通して一人でも多くの方にキリストの愛と平和の祝福がもたらされますようお祈り申し上げます。

(栃木県那須町 シトー会那須の聖母修道院)

△きずなをありがとうございます。浦神父様へこの面をお借りしてお見舞い申し上げます。

(千葉県習志野市 東田裕子)

△コロナ禍の中、海外で宣教されている皆様の健康を心からお祈り致します。

(東京都多摩市 中島玲子)

△“きずな”を拝見して皆様の御苦勞を思い御無事を願っています。コロナが一日も早く収束

しますように。(東京都小平市 小川美智子)

△「きずな」カラーになったんですね。なんだか春のような優しい感じです。

(千葉県松戸市 平松裕子)

△海外でお働きの神父様、シスター方のお便りはご苦勞の中にも希望と明るさに満ちていらっしゃいますね。(東京都中野区 青山日出子)

△各国で奮闘されておられる皆様の健康が守られますよう。(東京都中野区 篠岡淑子)

△ご復活おめでとうございます。皆様の日々のご奉仕ありがとうございます。感謝のうちに祈りつつ

(京都市南区 ヌヴェール愛徳修道会九条修道院)

△復活献金。(東京都清瀬市 辻村寛行)

△コロナ禍でさぞ大変な事と思います。ご健康を祈らせて頂きます。

(千葉県松戸市 萩原光代)

△お知らせ致します。8月で静岡修道院を閉鎖することになりました。宜しく願い致します。

(静岡県静岡市 幼きイエス会)

## 「変革が必要、変革を望む、変革を求める」フランシスコの経済

弘田 しずえ

ベリス・メルセス宣教修道女会

2020年11月19日から21日まで、イタリアのアッシジで「フランシスコの経済」という若者のオンライン国際会議が開催されました。教皇フランシスコのよびかけに、120か国から、約2,000人が参加し、経済のあり方を変えなければ、地球の未来はないという叫びが、具体的なプロセスとして動き出しています。パパ様は、世界経済の構造的問題について、環境の保全と貧しい人びとのための正義と切り離せないことを以前から強調していらっしゃいます。「フランシスコの経済」は、殺さず、いのちを生かす経済、排除せず、すべてを包摂する経済、非人間化ではなく、人間が、人間らしく生きられる経済、被造界（ラウダト・シの表現は、共通の家）を略奪せず、ケアする経済です。人間のいのち、尊厳、宇宙、地球の持続可能性を優先しない経済を根本的に変えるために、正義、平等、包摂的な持続可能な世界を、今、そして明日のために構築することを呼びかけました。講演者の中には、ヴァンダナ・シバ、ムハマッド・ユヌス、ジェフリー・サックスなども見られました。

最終声明は、10の要求項目をあげています。たとえば、

- ・ 世界中のタックスヘイブン（租税回避地）の即時廃止、
- ・ 既存の金融機関（世界銀行、国際通貨基金）を民主的かつ包括的な意味で改革し、世界がパンデミックによって引き起こされた貧困と不均衡から回復するのを助けるために、新しいグローバル金融機関を設立、
- ・ グローバル化した大企業、銀行は、環境、正義、もっとも貧しくされている人への影響について拒否権をもつ独立した倫理委員会を、経営に導入する、
- ・ 経済組織や市民機関は、男女の同一労働同一賃金を実現。女性の能力なしに企業と労働現場は、真に人間的に幸福をもたらす場になりえない

コロナ以前の普通の生活に戻りたいという声もありますが、パパ様は、今までの普通が、いのちを優先しない政治、経済、文化であることを指摘し、その意味で「新しい普通」の必要を訴えていらっしゃいます。「ニューノーマル」は、2020年10月に発表された回勅「フラテリ・トゥティ」も強調している「共通善」を基盤とする社会のあり方です。それは、国連の持続可能な開発目標（SDG）も掲げている「誰ひとり残さない」というモットーと重なります。2021年、「たがいに愛し合いなさい」という愛の掟を具体的に生きる招きは、このような生き方を示しているのではないのでしょうか。

## 新入会員 (敬称略)

個人会員 6名

片岡 万里 (高知県香美市) 豊島 究 (東京都練馬区) スミス 睦子 (東京都文京区)  
樋渡 健司郎 (秋田県秋田市) 山崎 かをる (大阪府岸和田市) Sally Wang (東京都世田谷区)

### 事務局より

- ◎前回きずな6月発行155号は良いニュースで溢れることを願っておりましたが、未だに感染症の脅威は続いているようです。早い終息をお祈りいたします。
- ◎2020年度の会計決算が終わりましたが、皆様からのご寄付は前年度より多い件数を頂戴しております。匿名者をはじめ、お一人お一人に会より心から御礼を申し上げます。
- ◎世界の宣教者からのお手紙はやはり感染症について多くなりました。宣教者の皆さまのご無事を願っております。
- ◎人と人とが分断しないことを願って「きずな」155号が出来たことに感謝します。
- ◎「ご家庭に眠っている未使用の切手やはがきをお送りください。」通信費として大切に使用させていただきます。

### 編集後記

◇新型コロナウイルスの影響で、感染対策を厳重に行ないながらミサを捧げている小教区もあれば、感染予防や高齢者の方々への感染防止のため完全にミサを中止している小教区もあります。終息はかなり先になると思いますが、新型コロナウイルス予防接種も始まりましたが、全ての方々に行き届くには当分時間の掛ることです。医療施設や福祉施設も感染対策を講じながら業務を続けています。カトリックを信仰する者として神様に委ね、新しい芽生えと共に終息を願い待ち続けたいと思います。(い)

### 発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

- ・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112  
日本カトリック海外宣教者を支援する会
- ・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会